

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援つぼみ		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 10日		～ 令和7年 4月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 10日		～ 令和7年 4月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別・集団の活動を実施することで、個々の障がい特性に応じた支援を実施している。	毎月の定例会議、活動ミーティングを通じて、個々の成長に応じた活動内容の立案・変更・修正を行っている。	今後も個々の成長に応じた活動内容について職員間で情報共有を密に図り、より良い支援を実施していく。
2	保護者様との支援内容の連携や情報の共有を図っている。	情報ツールを使用し、お困り事を相談することが出来る機会や、送迎の実施の可否・時間などを直ぐに変更出来る環境を整えている。	今後も相談事が行いやすい環境の整備に努めていく。また、保護者様から頂いたご意見について真摯に受け止め、業務の改善を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	感染症時の休暇期間の周知を図っていく必要がある。	現在は事業所全体での情報を発信するツールの設備がない為、個別に対応していることで情報の発信が遅れている事が要因である。	今後は全体に情報を発信することが出来るツールなどを検討し、ご家族が安心してご利用頂ける環境を模索し、検討していく。
2	活動で使用する課題種や余暇時間の玩具が古くなり、療育の質の低下が課題である。	課題種や知育玩具などを新しく導入しているが、不足している場面も見られている。	定期的購入することが出来るシステムの構築を検討し、利用者様が楽しみを持ちながら、安心して過ごすことが出来る環境を整えていく。